

第15回 日本在宅医学会大会 プログラム別 詳細情報

カテゴリー	一般演題口演
タイトル	医師のスピリチュアルケアに関する質的研究-看取りをする医師へのインタビュー調査から-
日時	平成 25 年 3 月 31 日 9 : 50 ~ 10 : 00
会場	第 8 会議室
座長	坂本医院 坂本 仁先生
演者	順天堂大学大学院公衆衛生学講座 山口 鶴子先生
企画趣旨	<p>[目的]看取りをする医師はスピリチュアルケアをどのように実践しているのか、質的研究で明らかにする。</p> <p>[方法] 調査対象は、機縁法にて調査の協力が得られた診療所および病院医師 12 名である。 全員男性で、年齢は 40~80 歳台 (平均年齢 : 55 歳)。施設所在地は北海道から沖縄まで 9 都道府県、2011 年 7 月から訪問して「終末期の診断、看取り」をリサーチクエストとした半構造化インタビュー調査を行った。そのデータからスピリチュアルケアの具体例を抽出し「スピリチュアリティとしての三つの存在 (時間存在、関係存在、自律存在)」2) 3) に分類し分析した。</p> <p>[結果] 「時間存在」に関するケアは、「現在の肯定」、「生きられるという希望」、「関係存在」に関しては、「みんなの納得」、「日常の再開」、「自律存在」に関しては「自分なりの納得」「時間の流れの中でのギアチェンジ」の概念が得られた。</p> <p>[考察]医師は、本人の「現在の肯定」、「みんなの納得」が得られるように病状や見通しを説明する。「日常の再開」ができるよう環境整備をする。「自分なりの納得」を尊重して「時間の流れの中でのギアチェンジ」を見守る。「生きられるという希望」を支援する。在宅は、「現在の肯定」「みんなの納得」「日常の再開」の点で、よりスピリチュアリティの高いケアが可能であると考えられる。</p>